

令和7年度全国学力・学習状況調査 結果の概要及び今後の取組

令和7年10月 丹波市立青垣中学校

4月17日(木)を中心に実施された本年度の全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。本校は、国語・数学・理科ともに全国の平均をやや上回る良好な結果でした。「生徒の主体的な学びを大切にしたい授業づくり」により、生徒にねばり強く学習課題に取り組む姿勢が身につけてきている成果と考えられます。しかし、本調査で測ることができるのは学力の一部でしかありません。また、比較的規模の小さい本校では、生徒ひとりの正誤によって結果大きく変わってきます。したがって、正答率等の数値のみにとらわれるのではなく、生徒の学力の傾向を適切にとらえ、苦手な部分を補い、得意な部分をさらに伸ばす教育活動を引き続き進めていくため、この調査結果を活用したいと考えます。

1) 調査の目的

- ◆義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証しその改善を図る。
- ◆学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◆調査全体の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2) 調査の概要

調査実施日 令和7年4月14日(月)～17日(木)

調査対象 小学校6年生、中学校3年生

- ① 児童生徒 教科調査〔国語、算数・数学、理科〕 / 質問調査
- ② 学校 質問調査

調査事項 ・学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題。
・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信。

調査問題 ・CBT 調査の導入(中学校理科)・生徒質問でのランダム方式の試行
・多様な生徒の状況把握・結果公表の内容、スケジュールの改善



3) 学力調査から見える成果と課題及び改善の方向性 調査結果〔全国との正答率比較〕

【国語】全国平均をやや上回りました。

【成果と課題】

- ・評価の観点、問題形式に関わらず、すべての項目での正答率が県・全国平均を上回った。内容別に見ると、言語事項は5.3%、話すこと・聞くことは3.6%、書くことは9%、読むことは2.9%、「短答式問題」は10.5%、「記述式問題」は7.1%多かった。「書くこと」が大きく上回っていたのは、2年時に「良い文章の書き方」指導を行い、普段から授業の中で感想や考えを書く時間をできるだけ多く取り入れてきた成果であると考え。特に4二の、手紙の下書きを修正しその理由を書く問いは正答率45.5%で、全国平均を15.4%と大きく上回っている。これも、作文・小論文の指導で「推敲」の大切さを学習したことが生かされていると考える。無回答率も全国平均より低い項目が多く、14問中5問にとどまった。特に3四、4一については全校平均よりも約15%少なかった。これは、意欲的に取り組もうとする、学習に対する姿勢の表れであると考え。
- ・生徒質問紙の、学校の授業以外に1日1時間以上読書をしている生徒は13%(全国平均9.6%)、また読まない生徒は19.6%(全国平均41.8%)、読書が好きな生徒は69.6%(全国平均61.6%)という結果から、日頃からの読書習慣も国語学習にプラスの効果をもたらしているのではないかと考える。
- ・正答率が20%以下であった2四や3四のような、読み手を意識して考えたり、書いたりすることに課題がある。全体的に「書く」問題が不得手であると感じる。今回の問題のように、ちらしやスピーチは読み手や聞き手を意識したものである。相手に取って分かりやすく、説得力のある文章を書けるようになることが課題である。

改善の方向性

- ・比較的理系タイプの生徒が多いので、明確な答えが出ることを好む傾向があるが、国語教育は言葉を通じて人と関わることを学ぶ教育であると考えるので、様々な活動を通して他者の考えを知り、他者から学ぶことで自分の思考を深め、多面的な思考ができるようにしていきたい。
- ・具体的には、自分の考えを書くことで表現し、それをペアトークやグループ討議で交流して、自分にフィードバックするような活動を取り入れる。
- ・表現力をつけるためにはたくさんの言葉を知ることが必要である。国語辞典を活用し、言葉の幅を広げていくこと。授業の中でも、言い換えたり他の表現を見つけたりするなど、工夫していくこと。
- ・聞き手を意識して話したり、自分の言葉で分かりやすく伝えたりする活動を増やすこと。
- ・良い文章に触れ、疑似体験によって視野を広げるために、読書指導を行っていくこと。

【数 学】 全国平均をやや上回りました。

【成果と課題】

- ・平均正答率は53% (全国平均より+4.7%、兵庫県平均より+4%)
- ・思考・判断・表現の観点についての問題の正答率は48.9% (全国平均より+9.8%、兵庫県平均より+9.8%)
- ・平均正答率を上回り、特に思考・判断・表現の観点についての問題が大きく上回っている。問題集などの問題を解くだけでなく、自分で調べたり、これまでの既習事項を利用したりするレポート課題に取り組んできた成果だと考える。特に図形領域における証明問題については、書く力がついており、9(3) 正答率 50% (全国・兵庫県平均ともに+16.8%) 無回答率 15.9% (全国平均-18.3%、兵庫県平均より-15.6%) である。
- ・「数と式」の領域において平均を下回っている。
正答率 40.0% (全国平均より-3.5%、兵庫県平均より-4.7%)
- ・思考・判断・表現の観点の問題の正答率が平均を上回っているのに対して、知識・技能の観点の問題の正答率が平均と同等程度。
- ・出題の趣旨が「〇〇の意味を理解しているかどうかをみる」という問題の正答率が低い。本質的に理解して知識を定着させる必要がある。

改善の方向性

- ・問題番号1のような概念の理解ができていないように思われる。考えて問題を解く力はあるが、根本的な概念の理解を丁寧に指導していく。
- ・数学の授業で学習したことが、普段の生活や将来に生きると考えている生徒が少ない。授業内容が世の中にどう生かされているのかに触れながら、授業することを意識していきたい。またレポート課題やテストの問題で、実生活で使われているようなことを題材としていく。
- ・粘り強く学習に向かうことができるような指導をしていく。具体的には、ペアトークやグループ討議などで相談しながら解く時間や、レポート課題などテストのような時間制限がない課題を出すようにしていく。

【理 科】 全国平均をやや上回りました。

【成果と課題】

- ・知識はあり、基礎的な問題は理解できている。1(5) 塩素の元素記号を答えなさい。【全国 48.1%、本校 68.9%】
- ・自分の考えがどのように変化したかを表現することができる。1(6) 水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する。【全国 78.0%、本校 86.7%】
- ・科学的な事象を日常生活と結びつけて考えることができる。9(2) クリーンルームのほかに気圧を利用している身近な事象を選択する。【全国 52.9%、本校 67.9%】
- ・実験の目的が理解できていないことから、計画を立てたり、予想したり、考察したりすることができない。2(1) 考察をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する【全国 13.7%、本校 22.8%】 9(1) 予想から学習した内容が反映された A さんの【振り返り】を読み、A さんの【予想】を判断し、選択する【全国 33.5%、本校 41.5%】
- ・学んだ内容を、多面的、総合的に分析することが苦手である。
- ・問題文は読んでいるが、図に書いてある説明文などはあまり読んでいない。1(3) 地層1から地層4までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する【全国 35.7%、本校 26.7%】
- ・問い方が変わると、答えられない。1(4) 生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する【全国 29.7%、本校 28.9%】 7(1) 小腸の柔毛、肺の肺泡、根毛に共通する構造と同じ構造をもつものとして適切な事象を判断し、選択する【全国 33.7%、本校 44.5%】 7(2) 消化によってデンプンがブドウ糖に分解されることと、同じ化学変化であるものを選択する【全国 58.9%、本校 50.7%】

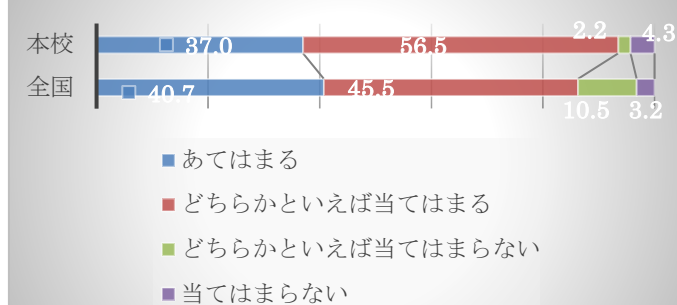
改善の方向性

- ・実験のレポートを工夫し、目的を明確にして実験を行い、その結果から考察ができるように授業中にアドバイスを行う。
- ・学んだ知識をもとに、身のまわりの事象と関連づけたり、他のことに応用して考えることができるように支援していく。
- ・質問紙より、理科が得意・理科が好きだと答え割合が全国平均を下回ることでより楽しく学べる方法を模索していく。

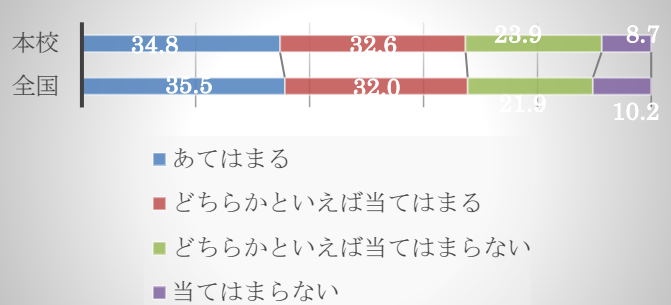
4) 生徒質問紙から見える成果と課題

自尊感情・自己有用感

①自分には、よいところがあると思いますか。



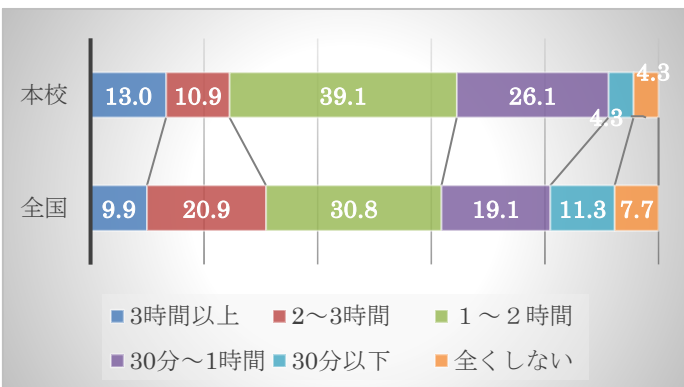
②将来の夢や目標を持っていますか。



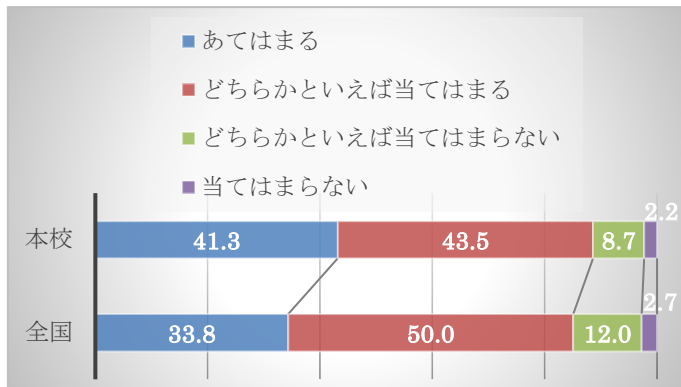
自分自身を肯定的にとらえている生徒や将来の夢や目標を持っている生徒は全国平均よりも多い。これはご家庭をはじめ地域や学校が、主体的に活動する生徒一人ひとりを応援し、しっかり支えているからであると思われます。自分のよいところを知り自信を持つことは、将来に夢(目標)が持てることにつながります。日々の生活の中で、人と比べるのではなく、一人ひとりの成長やよいところを認めていくことが大切です。学校では今後もキャリア教育実践研究充実事業(小中高連携)～兵庫版キャリア・パスポートによる連携研究～を通してキャリア教育を充実させ、生徒の自立を支援してまいります。

学習習慣

③学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。



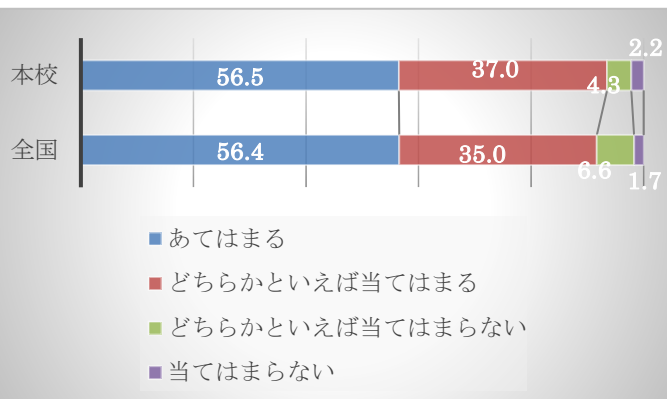
④先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。



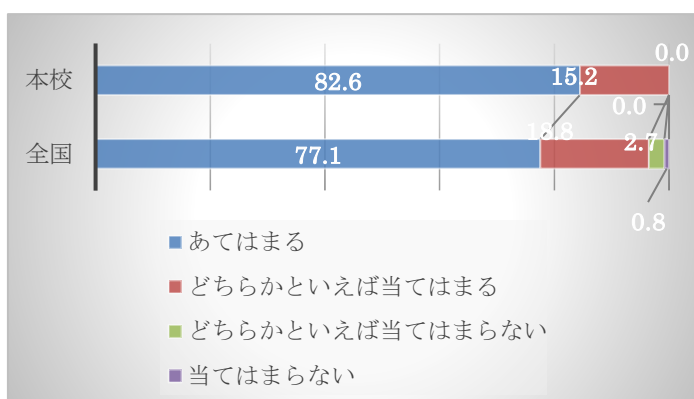
家庭学習の時間は以前に比べれば増加傾向にあるが、これは「青中礎チャレンジ」の取組の成果だと考える。ただし、平日・休日ともに学習時間は決して多くなく、1時間以上学習する生徒は全国平均を上回っています。しかしながら、良好な調査結果から、学習時間の定着のためには、学習時間の長さより学習に向かう姿勢や自分にあった学習方法の工夫が、より重要であると考えます。各家庭においても、学習環境を整えることやスマホ・ゲーム等の使用ルールの作成など、学習に向かう子どもたちの支援をお願いします。

生活習慣・規範意識・地域連携

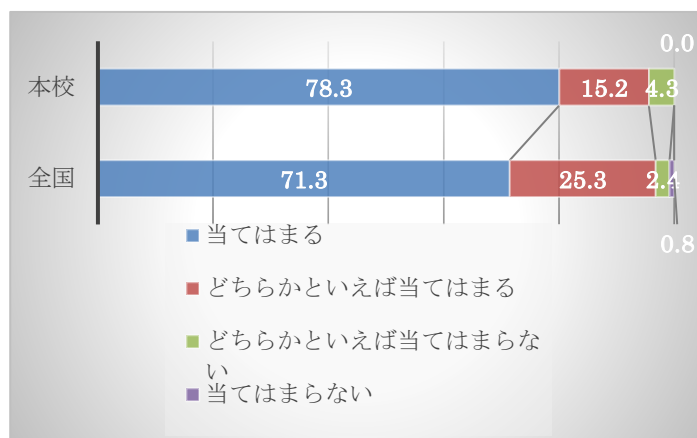
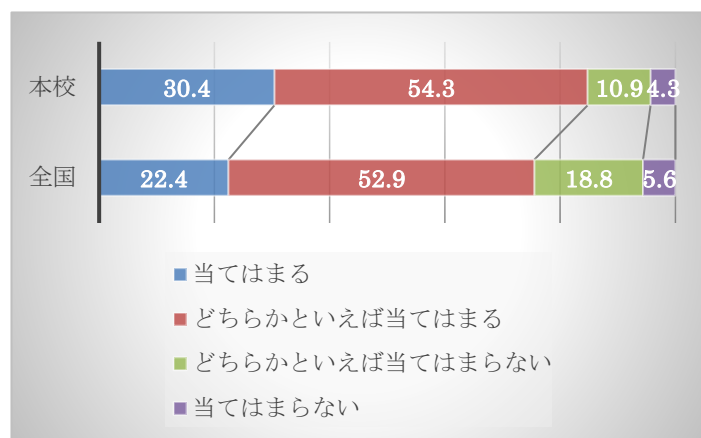
⑤友達関係に満足していますか。



⑥いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。



⑦地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか ⑧人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



多くの生徒は友達と協力して楽しく学校生活を送っていると考えられます。自尊感情の育成についてはおおむね良好であり、地域でのボランティア活動や学習支援サポーターの活用など小学校からCSとして地域の多くの方々との交流の効果が出ているように思う。「人の役に立ちたい」という思いを行動につなげる力を育むことで、自己有用感を高めます。その力をもとにして挑戦心を育む取り組みを充実させたいと考えます。また、いじめは絶対に許さないなど、多様な価値を認め自他ともに大切にする人権教育を進めるとともに、生徒中心の学校づくりを進めます。今後も地域とともにある学校づくりを進めてまいります。